

イーソーコ 遠藤文 代表取締役



新春*
interview

「物流不動産ビジネス」の動きは

☆令和に入り、物流不動産ビジネスが加速していると感じている。イーソーコグループでは物流不動産情報検索サイト「イーソーコ.com」の運営を中心に、倉庫をはじめとする物流施設に特化したリーシング、管理、リノベーション、コムへのアクセス数が増

ンサルディングなど、物流不動産を基軸に事業領域を拡大してきた。その背景は?

☆国土交通省HPに「物流不動産」が定義された影響が大きく、物流不動産ビジネスへの関心が高まってきたと感じる。弊社への問い合わせ件数やイーソーコ.comへのアクセス数が増

え、コーポレートサイトの閲覧数も上昇した。さまざまなメディアにも取り上げていただき、物流不動産ビジネスの創始者である会長の大谷に講演の依頼が急増した。合併会社や資本提携を希望される企業も増え、合わせて現在38社となった。人材育成に注力しているが

イーソーコグループでは、第一線で活躍する「物流不動産ユーザーリテイアラー」の育成に力を入れている。採用・教育・輩出の3つのフェーズがあり、採用面では、イーソーコグループで学生の採用、育成を主軸事業とする株式会社イーソーココムが650人を超え、やる気に満ちた学生ネットワークを構築した。各大学との連携も強化し、成長意欲が高く、物流不動産ビジネスに興味を持つ学生の採用は昨年10人が内定している。

教育面では独自のジョブローテーション制度を採用し、物流を基軸に不動産、建築、管理など、業種をまたいだスキルを身に付けることで、多動力を備えたメタスキルの高い人材を育成して

☆イーソーコグループでは、第一線で活躍する「物流不動産ユーザーリテイアラー」の育成に力を入れている。採用・教育・輩出の3つのフェーズがあり、採用面では、イーソーコグループで学生の採用、育成を主軸事業とする株式会社イーソーココムが650人を超え、やる気に満ちた学生ネットワークを構築した。各大学との連携も強化し、成長意欲が高く、物流不動産ビジネスに興味を持つ学生の採用は昨年10人が内定している。

東京五輪後の物流不動産に 大きな波が来る

☆新しいオフィスは、隣接している弊社物流部門(東連ウエアハウス)と一体化を図る目的がある。劇場をコンセプトにしたエンタランスはレックドカーペットを敷き詰め、全面ガラスでお客様に社内の活気ある様子を見ていただけるようにした。オフィス内にはフリーデスクを多く設け、グループ内でのコミュニケーションが活発になるよう設計している。

物流関連の講演依頼も増加している

☆大谷は客員講師として複数の大学で講演を行い、学生たちに物流不動産ビジネスの魅力や「イーソーコ」の魅力をアピールした結果、その流れから人財育成を担当するイーソーコドットコム社長の早崎幸太郎への講演依頼やラジオなどのメディア露出が増えてきた。中でも昨年11月は昼と夜のダブルヘッダーによる講演や、12月3日には日経BPM主催「経営課題解決シンポジウム」で、初の物流をテーマにした講演を行い、来場者に物流不動産ユーザーリテイアラーの可能性をアピールできた。これまでに2回開いてきた「物流不動産ビジネス1DAYセミナー」は、次回3月17日に規模を拡大して開催する予定。

また、建築部門となるイーソーコ総合研究所長の出村亜希子が昨年12月11日に「築古(ビル・倉庫)のリノベーション・コンバージョン計画実務資料集」(発行)総合ユニコム)を上梓した。倉庫ドクターとして倉庫リノベーション分野を確立した出村が、これまで蓄積してきたノウハウと実践事例を余すことなく公開した。

今年抱負を

☆東京オリンピック後の物流不動産には大きな波が来ると予測している。物流不動産の開発が進み、集約需要などに伴う都心部の倉庫の動きに着目し、ソリューションを提案していく。

また、2月には初となる物流不動産に関する懸賞論文の締切を迎える。応募数は100を超え、若い方からの応募が多く、今後の発展性に大きく期待ができる。

物流不動産ビジネスは、令和に入ってからなる成長が見込めるビジネスと自負している。イーソーコグループのコーポレートスローガンである「物流不動産ビジネスで人・社会・未来をつくる」を実現し、物流業界に貢献していきたい。